

2025年の無人モビリティサービスの本格普及を見据え 「GLP ALFALINK 相模原」で長期技術・サービス実証を開始

株式会社ティアフォー(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:武田 一哉、以下「ティアフォー」)、日本 GLP 株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:帖佐 義之、以下「日本 GLP」)、損害保険ジャパン株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:西澤 敬二、以下「損保ジャパン」)、アイサンテクノロジー株式会社(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:加藤 淳、以下「アイサンテクノロジー」)は、2025年の無人モビリティサービスの本格普及を見据えた長期技術・サービス実証を、「GLP ALFALINK 相模原」(ジューエルピー アルファリンク さがみはら)の敷地内にて開始します。

ティアフォーは「自動運転の民主化」をビジョンに掲げ、世界初となるオープンソースの自動運転 OS「Autoware^{※1}」の開発をリードし、誰もがテクノロジーの発展に貢献できるエコシステムの構築を目指しています。交通事故の削減や労働力不足といった社会課題の解決に自動運転技術が貢献するため、多くのパートナーとともに開発を進め、自動運転実証は国内外で100カ所を超える実績を積み重ねてきました。自動運転は、地域や環境ごとの様々なニーズへの適合が求められます。これまでゴルフカートやタクシー専用車両の自動運転化を進めており、今回新たに小型EVバスを自動運転化することで、自動運転への期待に応えていきます。

日本 GLP が展開する「ALFALINK」は、「Open Hub」(物流をもっとオープンに)、「Integrated Chain」(サプライチェーンをつなぐ)、「Shared Solution」(ビジネスの進化をサポート)の3つをコンセプトとしており、従来の物流施設における効率化・最適化を超え、これまでにない価値や事業を創造していく拠点となることを目指しています。今回実証を行う「GLP ALFALINK 相模原」は、総延床面積が約67万㎡を誇る日本最大級の最先端物流拠点です。この施設内において長期技術・サービス実証を行い、早ければ2022年のサービスインを目指します。顧客向けには施設内での効率的な移動を提供する最先端ソリューションとして、地域の皆さまにも興味と親しみを持っていただく機会を創出し、施設に勤める方々には快適で安全な職場環境の充実を図ります。

損保ジャパンは、ティアフォーおよびアイサンテクノロジーと共同で、安心・安全な自動運転サービスの実装を支えるインシュアテックソリューション「Level IV Discovery^{※2}」の開発を進めています。最終走行テストにおいても、「自動運転リスクアセスメント」・「遠隔見守りサポート」・「自動運転専用保険」を提供します。また、アイサンテクノロジーは、自動運転に必要な高精度3次元地図の分野で自動運転車の走行を支えます。

4社は、今回の「GLP ALFALINK 相模原」での実証終了後に効果検証し、関係各所との協議を踏まえ、サービスインの時期を最終確定予定です。

各社の役割分担

事業者等の名称	役割
ティアフォー	レベル4 ^{※3} 相当の自動運転技術・サービス実証の実施
日本 GLP	テストフィールド提供、実装先候補
損保ジャパン	自動運転リスクアセスメント、遠隔見守りサポート、自動運転専用保険の提供
アイサンテクノロジー	高精度3次元地図の作成・提供

走行テストの概要

実施期間	2021年11月12日～2022年3月31日
走行ルート	GLP ALFALINK 相模原敷地内
車両	タジマ社製の GSM8(手動運転車両/10名乗り)を自動運転対応車両に改造
乗車対象	GLP ALFALINK 相模原で働く方々

車両イメージ



用語解説

※1

名古屋大学で開発された自動運転用のオープンソースソフトウェア
Autoware は The Autoware Foundation の登録商標

※2

「走行前の事故予防」「走行中の見守り」「万が一の事故への備え」と、自動運転走行を安心・安全面で総合的にサポートするソリューション

※3

特定条件下で完全自動運転が可能な自動運転システムを搭載。実証時は、安全確保のためにオペレーターが乗員します。